

## 市長マニフェスト 進捗状況

NO	事業名	事業説明	平成26年3月末の取組状況	実施時期
1	地域に貢献する高齢者への支援	子供たちの通学をサポートする高齢者グループを支援します。通学路に沿って自分の住む地区から隣の地区まで子どもたちと一緒に通学サポートする「みな孫見守り隊」。パトロールのために委託費として警備会社に支出していた費用を「みな孫見守り隊」の経費として地域に還元します。	子供たちの通学サポートや、防犯・交通安全等の本来、市が行うべき業務の一部を担っていただいている「単位老人クラブ」、「防犯パトロール隊」等の主に高齢者で構成する団体に対し、活動に必要な物品提供や補助金の支出などの活動支援を行った。 なお、平成23年度からは、それまで市全域を業者委託していた巡回警備業務について、一部地域を除いて、防犯パトロール隊が実施しており、市の財政負担軽減が図れた。	1年以内
2	放置自転車撤去条例の制定	放置自転車防止条例をつくり、住環境保全と自転車盗などの軽犯罪の防止に努めます。	平成22年9月30日に「合志市合志市自転車等放置防止条例」を制定し、良好な生活環境を阻害する放置自転車の撤去等、市民の生活環境保全とともに、軽犯罪防止に努めた。 ○放置自転車撤去台数 平成23年度 26台 平成24年度 43台 平成25年度 54台	1年以内
3	公共交通と温泉を使った安全・健康・交流支援「湯ったり乗ったり弁天カード制度」	ユーパレス弁天の温泉が100円で何時でも利用できる便利なカード「湯ったり乗ったり弁天カード」を販売します。公共バスの利用は、高齢者の交通事故を防止し、地球環境にもやさしく、温泉は心身の健康や、旧町市民の交流に役立つなど、たくさんの相乗効果が期待されるはずです。	ユーパレス弁天への補助要綱を平成23年7月に改正し、レターバスの定期券である弁天カード提示の場合、入浴料を200円から100円とすることで、温泉の利用促進及び利便性向上を図るとともに、高齢者の交通事故防止や市民の親睦融和の促進を図った。	1年以内

## 市長マニフェスト 進捗状況

NO	事業名	事業説明	平成26年3月末の取組状況	実施時期
4	ごみの減量化とリサイクル促進	マイバック運動、資源物回収運動、ダンボールコンポスト等ごみの堆肥化の普及促進、リサイクルセンター等の誘致を積極的に行います。	<p>1 マイバック運動について 平成23年6月よりレジ袋の削減に関する取組を本格スタートさせました。平成23年度は、大型スーパー4店舗と有料化の協定締結を行い、平成24年度は新たに3店舗、有料化に取り組み合計7店舗になりました。その他の事業所についてもマイバックの持参率を高めるためののぼり旗やポスターの掲示及びお客さんへの声掛け等、レジ袋の削減に取り組んでもらっている。</p> <p>2 資源物回収運動について 普及啓発の取組により、資源回収団体の登録者数については年々増加している状況。 なお、平成25年度は、3団体の新規登録があり、延べ174件の資源物回収活動に対する助成金の交付を行った。</p> <p>3 ダンボールコンポスト等普及促進について 平成20～24年度にかけてダンボールコンポストの無料配布等の普及活動に取り組んだ。 生ゴミ処理器の一つとして認知度が向上したことから、平成24年度からは、生ゴミ処理機器設置補助事業（EM容器、コンポスター、電動式生ゴミ処理機器の購入補助）の対象品目の一つとして追加し、市民の生ゴミの減量化に向けた取組を支援した。 なお、平成25年度は当該事業を活用し、ダンボールコンポスト103基、電動式生ゴミ処理機14基、EM容器8基、コンポスター8基の購入がなされた。</p> <p>4 リサイクルセンター等の誘致について 現在、同様の施設を2市2町で構成する菊池環境保全組合の環境美化センターで運営しています。 構成市町の兼ね合から非常に難しい状況ではありますが、資源物回収の視点から民間のリサイクル業界の実績を調査していきます。</p>	1年以内

## 市長マニフェスト 進捗状況

NO	事業名	事業説明	平成26年3月末の取組状況	実施時期
5	地元中小企業支援 地域が頑張れる条例の制定	地元企業への発注を原則とする条例をつくれます。	<p>平成22年9月に地元企業への発注を原則とする条例を制定した。</p> <p>併せて、合志市中小企業等活性化会議を現在まで15回開催し、市内中小企業等の振興策の検討を行なった。</p> <p>平成25年度に実施した、市内事業者への発注を原則とした、住宅リフォーム助成事業の実績は、申請件数48件、市内中小企業の受注工事総額は約9000万円、合志市助成事業費総額は5,839千円となった。</p> <p>また、市内企業の受注拡大を目的に商工会有志による「すまいアレコレこうしたい」が平成25年5月に結成され、相談件数33件のうち18件が成約に結びついた。</p> <p>なお、介護保険を利用した住宅改修についても、市内企業への発注が図られるよう担当課と連携した取り組みを進めている。</p>	1年以内
6	まちづくりに市民のアイデアを！ チーム「宝箱」	合志市に住むことがより楽しくなるような、色々なアイデアを出せる市民の組織を作ります。	<p>市内外の大学、企業、団体等19団体と、様々な分野について、連携を図るための協定を締結し、相互の協力体制を構築した。</p> <p>また、連携協定機関連絡会議を開催し、団体間相互の連携、情報を共有、ビジネスマッチングの機会等を創出した。</p> <p>今後は、担当者レベルでの情報交換と、新たなまちづくりの検討などを行う事務的連絡会議を開催し、合志市に住むことが楽しくなるような事業展開を目指して進めていく。</p>	1年以内
7	手弁当 合志市が大好き 検討委員会の設置	住民参加の手段として「市民自主参加型検討委員会」を作ります。	<p>合志市CM制作ワークショップや合志市祭り実行委員会等において、市民に手弁当で自主参加していただき、市民の知恵をお借りし実施した。</p> <p>また、現在、各分野における市政への協力者を「人材(財)バンク」に登録し、各種委員会等の委員として選任するなど、市政運営に住民参加の機会を創出するとともに、住民のアイデアを広く活用していく取り組みを継続して実施しています。</p>	1年以内

## 市長マニフェスト 進捗状況

NO	事業名	事業説明	平成26年3月末の取組状況	実施時期								
8	健康に結びつく様々な活動を融合させた健康づくり	行政職員がコーディネーターとして活躍すれば、スポーツや文化活動、ボランティア活動など多様な取り組みを健康に結びつけることが可能です。	<p>市民から要請があったスポーツに関する出前講座に、スポーツ推進委員に加えて本市担当職員も出向き、市民の健康増進に関する取り組みを支援した。</p> <p>また、市民の健康づくりの取り組みを推進するため、地域における核となる「健康づくり推進員」を養成するなど、市民の自主組織化に繋がる取り組みも並行して実施した。</p> <p>健康づくりモデル事業として行っていた、須屋・泉ヶ丘・野々島の3カ所について、「健康ステーション化」し、毎週1回継続して地域住民が健康づくりに取組むことができる仕組みづくりを行った。</p> <p>さらに、すずかけ台区においては、平成24年度のモデル事業後、区の役員が中心となり、自主活動を継続している。</p> <p>3カ所のステーションとすずかけ台区から事業継続協力をいただける人材(ステーションサポーター)を養成し、自主運営ができるように支援を行っている。</p>	1年以内								
9	みんなで祝おう100歳の誕生日	高齢者祝い金は、現状では1万円の祝い金で、100歳以降毎年1万円が支給されています。年間20名にも満たない対象者であり、市民みんなで祝う価値があると思うので10万円に増額します。	<p>多年にわたり社会の発展に寄与された高齢者に対し、平成22年度より、敬老祝金10万円を支給している。</p> <p>敬老祝金を支給することで、高齢者の長寿を祝い、労をねぎらうとともに、市民の敬老思想及び高齢者の生活意欲の高揚を図った。</p> <p>支給実績</p> <table style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>平成22年度</td> <td style="text-align: right;">12名</td> </tr> <tr> <td>平成23年度</td> <td style="text-align: right;">12名</td> </tr> <tr> <td>平成24年度</td> <td style="text-align: right;">5名</td> </tr> <tr> <td>平成25年度</td> <td style="text-align: right;">17名</td> </tr> </table>	平成22年度	12名	平成23年度	12名	平成24年度	5名	平成25年度	17名	1年以内
平成22年度	12名											
平成23年度	12名											
平成24年度	5名											
平成25年度	17名											

## 市長マニフェスト 進捗状況

NO	事業名	事業説明	平成26年3月末の取組状況	実施時期
10	障がい者の自立支援と優しさを持つ企業への公的支援の検討	人と人が支えあう施設などの運営を支援し、一人でも多くの雇用につながるよう公的な支援制度をつくります。	<p>本市が調達する物品やサービスについて、障害者就労施設等から優先的・積極的に購入することを促進するため、「合志市における障害者就労施設等からの物品等の調達の推進を図るための方針」を平成26年1月8日に制定し、全庁的な支援体制を構築した。</p> <p>取組の成果として、平成24年度1,509千円の発注実績に対し、平成25年度は1,859千円となり、前年度実績より上回った。</p> <p>また、併せて展示商談会及び販売会を実施し支援を図った。</p> <p>今後も市民や企業等への周知を図り、障がい者の就労に繋がる支援を継続していく。</p>	1年以内
11	楽しい子供会活動活性化支援体制づくり	子供会活動自体が保護者の負担になっているため、活動を行政が積極的に支援するチームをつくるとともに、行政の能力を活かした人的支援を行います。	<p>子ども会活動における保護者負担軽減のため、各子ども会の活動状況を踏まえ、会員数の少ない子ども会には、合同で参加できるよう働きかけるとともに、スポーツ大会等に出る機会を設けるなど支援した。</p> <p>また、子ども会を退会した中学生、高校生対象にジュニアリーダー研修を実施し、ジュニアリーダーを養成することで、子ども会活動における保護者負担の軽減及び子ども会活性化繋がる支援を行った。</p>	1年以内
12	給食費振り込み制度の検討	旧西合志町では振り込みが可能ですが、旧合志町では当番制になっています。それぞれにメリット・デメリットがありますが、よりよい方法を皆さんとともに検討します。	<p>平成23年度に合志市内10校の小中学校と保護者の皆様の協力を得て、平成24年度より、口座引落による徴収に統一した。</p> <p>なお、平成26年度以降についても、現在の徴収方法を継続する予定。</p>	1年以内
13	教師力の向上:がんばる先生が頑張れる環境をつくる	子どもたちのために、自己研さんに励む先生たちに市が研究費用を支援し、ひいては子どもたちの学力・体力向上を目指します。	<p>平成23年度より、市小中学校で「がんばる先生支援補助金」を活用した事業を実施した。</p> <p>取組内容としては、県外の先進校、研究発表会への参加、外部講師を招聘しての校内研修、先生の資質向上のための図書購入などで、授業力の向上、児童理解生徒指導力の向上に向けた研修を実施した。</p> <p>その成果として、平成25年度全国学力・学習状況調査では合志市児童生徒の学力は一部課題もあるが全国平均正答率に対して概ね上回っている結果となった。</p> <p>平成26年度についても、同内容で事業を継続し、先生の支援を行うことで、更なる授業内容の充実を図る。</p>	1年以内

## 市長マニフェスト 進捗状況

NO	事業名	事業説明	平成26年3月末の取組状況	実施時期
14	子育て中の働く人たちが、より働きやすい環境整備	働く人たちのリフレッシュ施設である体育館、グラウンド、研修室など一般に開放する公共施設の使用料を見直します。	公共施設の使用料のうち、同種の施設間でばらつきがあった料金について、安価な料金に合わせた改正を平成23年4月1日から実施した。 また、平成25年度には、生涯学習関係施設使用料の検証に着手するなど、適正な使用料の設定への取り組みを今後も継続して進めていく。 なお、総合センターで行う市主催行事については、平成22年10月より要望に応じて一時託児の運用を行うなど、利用者の利便性向上にも取り組んでいる。	1年以内
15	スピード感のある行政経営「まちづくり戦略室」	まちづくりの課題解決のため、企画立案・実施まで一貫して行う市長直轄の部署を作ります。	平成22年7月に、まちづくり戦略室を設置し、重点区域土地利用計画の推進、産学官の連携、地域再生等、市が抱える様々な課題に取り組んだ。 なお、平成26年4月1日の組織改正により、組織名称を政策課とし、重点区域土地利用計画について担当する「まちづくり班」、国が導入する予定の社会保障・税番号制度等について対応する「行政推進班」を新設するなど、組織体制を強化し、より一層スピード感のある行政運営に努める。	1年以内
16	地域を守る消防団便りの発行	身近に地域防災を担ってくれる消防団や自衛消防隊の活動状況を広く市民の皆さんにお知らせすることで、防災意識の高揚と消防団活動の維持・拡大を図ります。	地域の防災を担う、消防団の役割や活動について、定期的に広報誌に掲載するなど、市民に対して消防団の必要性・重要性を認識してもらうことで消防団活動の普及啓発を行った。	1年以内
17	広報「こうし」:より面白く充実した情報の提供	市の課題を明らかにし、事業を起す前から市民と意見を交換することのできるような双方向の情報交換ができる広報誌づくり・情報受発信を進めます。	健康づくりや保育に関する話題など、市政に関する特集記事を掲載し、タイムリーな市の取り組みについて情報発信に努めた。 また、市民の活躍や話題を継続的に掲載するなど、市民に親しまれる広報紙づくりに取り組んだ。 なお、広報誌と併せて、ホームページやツイッターによる情報発信を行うとともに、市民と双方向での情報交換が出来る体制構築を図った。	1年以内
18	次世代へ引き継ぐための公共投資	身近な住環境の整備に積極的に取り組みます。高齢化が進むと住宅や土地を手放すことも考えなければなりません。誰もが住みたくなくなるような、より財産価値をあげることで、できる公共事業に積極的に取り組むことで、若い世代へ財産を引き継ぐことが可能となります。	築年数が相当年経過した各地区の道路や側溝等について、計画的な整備を行い、快適な住環境整備に努めた。 また、子どもからお年寄りまで誰もが安全、安心で楽しく過ごせるよう、老朽化した施設の改築更新や、公園の適正な維持管理など、次世代へ引き継ぐ財産となるよう、今後も積極的な整備に取り組んでいく。	1年以内 H22～25年度

## 市長マニフェスト 進捗状況

NO	事業名	事業説明	平成26年3月末の取組状況	実施時期
19	子どもたちが安心して通学できる環境をつくる	各小中学校の通学路の防犯灯設置率を100%に引き上げます。	<p>各小中学校通学路における防犯灯設置については、学校から要望に応じて、厳しい財政状況を勘案しつつ計画的に設置を行った。</p> <p>また、平成25年度においては、市が管理する全ての防犯灯をLED照明に改修し、更に安全な通学環境の整備に努めた。</p> <p>なお、防犯灯設置と併せた、子どもたちの通学をサポートする取り組みとして、各地区の防犯パトロール隊との定期的な会議開催による情報共有や協力体制の構築等を行った。</p> <p>さらに、合志市「安全安心の日」推進要綱に定める1日、10日、20日に、登校時間帯に合わせた、市職員による、交通指導車巡回の実施しや、本市危機管理調整監による、下校時の巡回指導を毎月15日程度行った。</p>	2年以内
20	動物と共生する条例策定	飼い主の責任と義務を明文化し、ペットとともに快適に暮らすことのできる環境と社会を作ることを目指し、市民と一緒に条例をつくります。	<p>動物の飼養に関する飼い主の責務については、既に「合志市美しいまちづくり条例」に規定されており、本条例に基づき、文書や、看板、広報等により啓発を行っている。</p> <p>また、動物の鳴き声については環境基本法、犬の放し飼いについては熊本県動物の愛護及び管理に関する条例に飼い主の責務等が規定されていることから、今後も既存の法律、条例等により、飼い主による適正な動物管理の普及・啓発を行い、快適な住環境の整備に努める。</p>	2年以内
21	子ども会議による遊び場確保	子どもたちの意見を活かし、一緒に作っていく子ども参加型の遊び場確保が必要です。大学との連携で得られるまちづくりのノウハウを活かしながら子ども会議を開き、子ども達と一緒に遊び場構想を練り、事業を実施します。	<p>平成22年度より、概ね年1回、「子ども会議」を開催し、市長と市内各中学校の生徒代表とのフリートーク形式での意見交換を実施した。</p> <p>子ども目線による本市のまちづくりに対する様々な意見が出された。</p> <p>今後も同様の取り組みを継続していくとともに、本市の厳しい財政状況をにらみながら、事業化について検討していく。</p>	2年以内
22	ボランティアに感謝の気持ちを表し活動を広げる表彰制度	ボランティアに対する正当な評価が得られる仕組み、市民への理解を促し、ボランティアの輪を広げ、感謝の気持ちを表す表彰制度を作ります。	<p>平成22年10月に「合志市ボランティア表彰実施要綱」を制定し、各種のボランティア活動に取り組んでいる市民を表彰することで、感謝の意を表するとともに、市民へのボランティア活動の普及啓発を行った。</p> <p>平成23年度：2個人、3団体                      平成24年度：10個人・11団体                      平成25年度：12個人・8団体</p>	2年以内

## 市長マニフェスト 進捗状況

NO	事業名	事業説明	平成26年3月末の取組状況	実施時期
23	合志市のお宝発掘:人材マップの作成	合志市には、魅力ある人たちがたくさんいます。優れた人材は合志市の宝です。色々な特技や能力を地域に活かしたい人、教えてもらいたい人、そんな人たちの橋渡しをする人材マップを作ります。	<p>平成24年12月に「合志市人材(財)バンク設置要綱」を指導者だけでなく、市の発展に何らかの形で協力したいと思っている人も登録できるように改正し、より多くの合志市の優れた人材が地域に貢献できる体制整備を行った。</p> <p>今後は、各種委員会の委員選任など、登録者の市政運営への積極的活用を図っていく予定。</p> <p>なお、平成26年4月1日現在で3団体15個人を指導者、39名を市政参画登録者として登録し、市政参画登録者のうち2名を自治基本条例推進委員、4名を総合政策審議会委員、1名を熊本県都市計画区域マスタープラン検討委員に選任した。</p>	2年以内
24	学校給食 おいしいご飯で健康な体をつくる	子どもたちが家庭用炊飯器を使って、クラスごとに温かご飯を自分たちで炊き上げ、お茶碗に一人ひとりがよそう学級給食を進めます。	<p>炊飯器給食を実施するために必要な設備等の検討を行ったが、炊飯ルームの設置や電源拡張工事など多額の整備費用が必要となる。</p> <p>当初は農林水産省の補助事業活用により、実施することを想定していたが、平成22年度末を持って、当該補助事業が廃止されている状況。</p> <p>補助事業が廃止されたことにより、市単独での財源確保が必要となるなど、マニフェスト作成時と状況が大きく変わっているため、中止とする。</p>	2年以内
25	さわやかな学習環境をつくる	受験前の中学3年生のクラスを対象にクーラーを整備します。	<p>平成24年度に、高校受験を控えた、中学生の快適な学習環境整備のため、市内中学3年生の全教室(16教室)に空調設備を設置した。</p> <p>また、平成25年度には、国の緊急経済対策事業を活用し、市内小中学校の教室(普通教室、特別教室、その他教室、合計253教室)全てに空調設備を設置した。</p>	2年以内



## 市長マニフェスト 進捗状況

NO	事業名	事業説明	平成26年3月末の取組状況	実施時期
26	合志市女性センター「かすみ草館」設置	男女共同参画社会の実現をみんなで推進するまちに合志市女性センター「かすみ草館」を設置します。合併した市には、旧町ごとの歴史資料館があります。二つの歴史資料館を一つに統合し、不要となった施設に女性センターを設置します。	<p>男女共同参画社会を実現するための女性センター設置については、平成22年度より、市民の代表者や女性団体、学識経験者等で構成している「第三期男女共同参画推進懇話会」で、協議・検討を行った。</p> <p>懇話会においては、現状として、本市の西合志庁舎健康福祉部が女性センターとして、一定の役割を担っていることから、現状機能を活用し対応して行くとの意見集約がなされたところ。</p> <p>また、女性センターの設置場所として想定していたのは、歴史資料館と郷土資料館の統合後の跡地であるが、統合について、本市文化財保護委員会で審議されたが、資料の収蔵スペースの確保、市民の利便性等の理由により、現時点で統合は行わないとの答申が市に対して行われた。</p> <p>今後も様々な機会において、市民から意見を徴し、市民の意見を踏まえた検討を行ってまいります。</p>	2年以内
27	歴史・伝統文化の共有：歴史探訪バス「まちめぐり食べさる紀バス」の運行	春夏秋冬年4回のまちめぐり食べさる紀バスを走らせ住民交流とお互いの理解を促進させます。	<p>平成22年度より、ふるさと探訪、歴史探訪とあわせ郷土料理などを提供する「ふるさと探訪まちめぐりバス」の運行を年4回実施し、市内外から多数の参加があった。</p> <p>今後も同様の取り組みを継続していく予定。</p>	2年以内
28	市民・議会・行政の協調による事業仕分け	市民、議会、行政の協調により、事業仕分けを行います。無駄な事業費のカットは、市民、議会、行政が共に進めるべきものです。市民第一に二元代表制の中でお互いの責務を明確なものとしします。	<p>平成23年度は16事業を仕分けし、廃止(不要)1件、民間・市民による実施1件、市実施(現状)1件、市実施(改善)13件という評価になりました。</p> <p>平成24年度は仕分け委員から行政職員を除外し、新たに公募委員を加えて事業数を32事業に増えました。結果は、廃止(不要)1件、民間・市民による実施2件、市実施(現状)7件、市実施(改善)20件、市実施と市実施以外が同数1件、市実施(現状)と市実施(改善)が同数1件という評価になりました。</p> <p>平成25年度は名称を「事務事業検証会」に改め32事業を検証し、廃止(不要)1件、民間・市民による実施2件、市実施(現状)16件、市実施(改善)13件という評価になりました。</p> <p>各年度とも、委員会の評価結果をもとに市としての対応を協議し、翌年度予算編成に取り組みました。</p>	2年以内

## 市長マニフェスト 進捗状況

NO	事業名	事業説明	平成26年3月末の取組状況	実施時期
29	消防署の誘致	合志市・菊池市・大津町・菊陽町で構成する菊池広域連合消防本部の中で、人口が集中し、また、構成市町村への出勤を考えると、圏域の東西をつなぐ大津西合志線、南北を結ぶ住吉熊本線の交差する合志庁舎前は候補地として最適です。関係市町長との協議を積極的に進めます。	平成23年3月に策定された、菊池広域連合消防本部消防施設整備基本計画(平成24年度から平成33年度まで)では、平成33年度までは、現在のままの4署体制で維持する予定であり、本市に所在する西消防署については、平成24年度から新築工事に着手し、平成25年4月より新体制で稼働しているため、中止とする。	在任期間中
30	黒石原演習場への災害対策拠点づくり	現状の広大な自衛隊演習場に熊本都市圏の災害対策拠点としての機能を持たせ、そこにいたる災害対策緊急避難道路の整備、災害対策緊急医療機関としての熊本再春荘病院、菊池恵楓園の機能強化、緊急医療ヘリポート等、都市近郊に位置する自衛隊施設を市民のための有効な施設となるよう国に強く働きかけます。	平成24年度に自衛隊演習場について、災害対策拠点となるよう北熊本自衛隊等の関係機関に要望等を行った。 今後も関係機関への働きかけを継続し、自衛隊施設が市民にとって有効な施設となるよう機会を捉えながら働きかけを行っていく。	在任期間中
31	合志警察署の誘致	大津警察署管内で最も犯罪件数の多いのが、光の森周辺の菊陽町、合志市です。警察業務の現状や市としてのポテンシャルを考えれば警察署の誘致も不可能ではありません。警察官としての経歴、熊本県議会議員、国会議員秘書としての経験を活かし、実現に向け動きます。	平成25年8月30日付けで、熊本県警察本部より、「警察署再編計画(案)」が公表され、その中で、数年後を目処に、熊本市北区及び合志市を管轄区域とする、熊本合志警察署(仮称)を設置することがうたわれている。 同年9月末までにパブリックコメントの募集を終了し、新設に向けた準備がすすめられているところです。	在任期間中

## 市長マニフェスト 進捗状況

NO	事業名	事業説明	平成26年3月末の取組状況	実施時期
32	自家用車に頼らずに済む公共交通網の整備	<p>現行の循環バス、環状バス、乗り合いタクシーなど公共交通の充実を高齢社会の現状にあったきめ細かな事業展開を進めていきます。</p>	<p>平成24年度からレターバスをはじめとする各コミュニティバスを試行運行から本格運行とし、レターバスにおいては、利用定着のためダイヤ改正等を行わず利用促進策を実施することが市地域公共交通協議会において決定された。</p> <p>平成25年度は、公共交通出前講座、小学生向けバスの乗り方教室、健康づくりにつながるガイドマップの作成等の利用促進の取り組みを実施した。その結果、平成26年3月の実績では、利用者数7,561人、1便あたり利用者数21.6人、収支率25.9%であった。</p> <p>運行経費削減策として、レターバスにおける音声広告収入を実施し、4社から広告収入があった。</p> <p>また、循環バス須屋線において、当該バスの利便性向上のためのアンケート調査を実施した。今後その調査結果を基に、沿線地域の公共交通の利便性向上のための協議・検討を行っていく。</p> <p>なお、平成26年3月に市地域公共交通計画内容にコミュニティバスの指針・指標を新に盛り込んだ。それを基に、市民により良い地域公共交通体系の構築を目指していく。</p>	在任期間中
33	こうし大学、こうし高校の積極的な誘致	<p>市には、高校、大学のグラウンドをはじめ、公的研究施設、さらには職に結びつく工業団地等があります。また、交通アクセスも良く、大学・高校などの立地に大切な要素が整っています。このような恵まれた環境を持つ合志市に似合う高校、大学の誘致を積極的に進めていきます。</p>	<p>将来的な大学等の誘致に繋げる取り組みとして、県内7つの大学等と連携協定を締結し、様々な分野について、各大学が持つ、専門的知識等を活用した取り組みを実施するとともに、相互の協力体制を構築した。</p> <p>近年の全国的な少子高齢化の影響により、統廃合など、学校再編が進む中、短期的には、新たな大学、高校の設置は難しい状況であるが、今後も本市をフィールドとした各大学との協働による取り組みを継続するなど、連携連携強化を図り、将来の高校、大学誘致実現に繋げていきたい。</p>	在任期間中

## 市長マニフェスト 進捗状況

NO	事業名	事業説明	平成26年3月末の取組状況	実施時期
34	地域の発展バランスを考えた土地利用検討委員会の立ち上げ	新市建設計画で約束された県道大津植木線バイパスの整備促進と、従来の製造事業所だけではなく、研究施設や農業を活かした企業誘致など、地域特性を活かした土地利用の検討が必要です。	<p>県道大津植木線バイパス整備促進については、事業の早期完成のため、県と連携していく。</p> <p>また、土地利用検討については①竹迫地区②辻久保～黒石地区③北熊本スマートインターチェンジ周辺の3つのエリアに関し、学識経験者、市議会議員、地域企業及び地域代表等で構成する検討委員会を計5回開催し、全体構想を取りまとめた。</p> <p>この検討委員会での結果を踏まえ、人々が安心して安全に暮らせ、地域格差のない活力に満ちた「健康都市こうし」の創出を図るため、土地利用の指針として重点土地利用計画書を策定した。</p> <p>平成24年度から、三つのエリア構想のバランスを図りながら、計画書に基づいた具体的な土地利用に着手している。</p> <p>なお、重点土地利用計画の一つである竹迫地区の中で、合志庁舎前の地域については、市街化区域への編入に向け、熊本都市計画区域マスタープランの見直しについて熊本県と協議中です。</p>	在任期間中
35	都市計画の見直しができる市	合志市の市街化区域は1割にも満たず、日々の生活をおくるための商業店舗も簡単には建てられない状況です。既存市街地に隣接する市街化調整区域の土地利用をもっと使いやすくする必要があります。さらに、今必要なのは自分たちの住む町の土地利用を自分たちが考え、実行できることです。調整区域の規制緩和に向け、熊本県・熊本市・周辺市町との積極的な協議を進めます。	市街化調整区域における現行の都市計画基準では、小規模な店舗等しか立地できないため、市街化区域に隣接した市内の南部地域の開発が年々進むことで、北部地域との格差が益々大きくなってきている。バランスのとれた土地利用と北部地域の活性化のためには、生活利便施設等の立地基準の緩和が必要です。引き続き規制緩和の要望をおこない、具体的な基準の策定に向け熊本県と協議をおこなっていく。	在任期間中
36	農業と農地を活かした住環境の整備を制度化	現在ある地区計画制度を見直し、市街化調整区域の農地に新たな付加価値が付くような仕組みをつくります。家庭菜園つきの集合住宅建設ができるよう地区計画制度を見直せば、土地所有者としては土地を手放すことなく安定した収入の確保ができ、借り手にしても市街化調整区域であるというデメリットがメリット(地価の安さと豊かな農地)に変わります。	市街化調整区域の活性化のため、合志市、菊陽町、益城町、嘉島町で協議会を設けており、集落内開発、及び地区計画制度の要件緩和、柔軟な運用を要望してきた。平成24年度に、構成している4市町を一体的に捉えた土地利用計画として、「熊本都市計画区域東部地域活性化ビジョン」を策定しましたので、活性化ビジョンを基に引き続き熊本県と更なる具体的な協議をおこなっていく。	在任期間中

## 市長マニフェスト 進捗状況

NO	事業名	事業説明	平成26年3月末の取組状況	実施時期
37	魅力ある農業と起業化	個々の農地、個々の技術を集結し、より安定した農業経営ができるような新たな農業組織・形態の検討と、農業生産法人の誘致など、農家所得の安定を図り、農業を魅力あるものとする農業政策を進めます。	<p>魅力ある地域農業創出の事例として、平成23年度より、製薬会社や研究機関等と連携し、薬用植物「甘草」の特産品化を目指した取組を実施しています。</p> <p>なお、甘草など、本市の特色ある農産物を活用した新商品開発等を推進するため、「六次産業化及び農商工連携新商品等開発事業」を開始した。</p> <p>平成25年度は、公募にて6件採択し、農業者による起業化等の取組が進められている。</p> <p>また、市役所内の関係部署の横断的な連携体制として、「六次産業化プロジェクトチーム」を設置し、本市における農業の起業化等に関する方策の検討を進めている。</p>	在任期間中
38	合志市の特性を活かした新しい産業の創出 健康ファクトリー構想	健康産業(農業・バイオ)は、合志市の特性に合った産業であり、魅力的なものとなるはず。身近なものに付加価値をつけて、健康をキーワードに農業、工業、商業が密接な関係を持ちながら大きな広がりを見せることができます。また、健康産業、健康食材、医療品・医薬品、農業、大学、研究機関等を集積させ、単なる観光ではなく、中長期滞在型の集客施設、県内はもとより広くアジア圏域から人を呼ぶことのできるような「おもてなしの産業づくり」エリアの検討を進めます。	<p>健康をキーワードとした新たな産業を創出するための取り組みの一つとして、市内外の大学、企業等19の団体と、それぞれの専門分野についての知識、技術等について、相互に協力・連携を図ることとする包括連携協定を締結し、本市をフィールドとした新たなビジネスマッチングの機会等を創出したところであり、今後も連携の拡大を図って行く。</p> <p>なお、現在、包括連携協定を締結する企業や研究機関等と連携し、平成23年度より薬用植物「甘草」の試験栽培等を実施するなど、具体的な取り組みも進めている。</p>	在任期間中
39	公的医療機関と連携した県北の健康・医療拠点づくり	熊本県北部の中核的な医療センターとしての期待が高まる再春荘を核とし、菊池病院、恵楓園との連携を強化し、健康を支える医療拠点づくりを進めます	<p>市民の健康を支えるための医療拠点づくりとして、医療機関との連携強化を進めている。</p> <p>具体的な取り組みとしては、再春荘病院とタイアップした市民対象の健康づくり講演会を開催するなど連携促進を図っている。</p>	在任期間中

## 市長マニフェスト 進捗状況

NO	事業名	事業説明	平成26年3月末の取組状況	実施時期
40	健康総合グラウンドの整備促進	既存のグラウンドが市民の要望に合ったものであるか検証し、多くの人の活用ができるような仕組みと、グラウンド整備を進めます。	平成23年度に市民の代表者や学識経験者等で構成する「グラウンド利用促進検討委員会」を設置し、既存スポーツ施設の検証や市民の健康づくりの拠点となる、総合グラウンド構想の検討等本市におけるスポーツ施設のあり方について検討を行った。 当委員会からは、平成25年3月に本市に対し意見書が提出された。現在、本市の厳しい財政状況を睨みながら、意見書に基づく検討に着手している。	在任期間中
41	御代志～光の森線： 100万都市公共交通構想	100万人の熊本都市圏にLRTやBRT環状線を走らせ、JR光の森駅と熊電御代志駅を結ぶ公共交通体系を整えます。	JR光の森駅と熊電御代志駅の結節については、コミュニティバス(レターバス)運行による6往復/日の結節を行い公共交通体系の整備を図っている。 また、LRTやBRTによる環状線の実現に向けた取組みについて、熊本電鉄(鉄道)の都心結節は、熊本都市圏都市交通アクションプログラムに掲げられている事業ですが、熊本電鉄(株)が経営再建計画に取り組むことから本事業は一時凍結となっています。しかしながら、当該プログラムにおいて本事業は「実施検討施策」の一つであるため、検討が可能な時期になりましたら関係団体と連携を図りながら協議を行っていく。	夢・アイデア
42	国・県の用地を賢く使う、 発想の転換事業	堀川の沖野遊水地など、たとえば、ペットが、伸び伸びと走り回れるスペースや子ども達がサッカーや野球を楽しむにも十分な広さがあります。	沖野遊水地の活用については、庁内での検討に加え、市民アイデアを募集するなど、活用策についての検討や、管理者との協議を行った。 沖野遊水地については、治水を目的とした施設であり、住民の生命財産を守るための治水機能を損なわないこと、また、利用する場合は、避難誘導対策の構築が要件となることから、活用へのハードルは高いところであるが、今後も、管理者と実現可能な合理的活用策が無いのか、検討協議を行っていく。 なお、県有施設である、農業公園カントリーパークにおいては、施設管理者との連携により、市が実施する市民祭等のイベントや各種スポーツ大会など、積極的に活用を行っている。	夢・アイデア

## 市長マニフェスト 進捗状況

NO	事業名	事業説明	平成26年3月末の取組状況	実施時期
43	農家の下宿屋制度	産学官連携の一つとして、大学農学部や農業に関心のある大学生を下宿させます。バイトとして農業を手伝ったり、子どもたちの勉強を見てやったり、時には婚活にもなるかもしれません。若い世代に農業を知ってもらい、農業に活気をもたらす一つの制度として検討していきます。	若い世代に農業を知ってもらい、農業に活気をもたらすための活動拠点として、本市上庄地区の空き家を改修し、「みんなの家」として整備した。 「みんなの家」を活用した取り組みとしては、地域住民と県立大学生等との交流会、更には学生による下宿など、若い世代に本市及び農業を知ってもらう取り組み実施している。 また、包括連携協定を締結している熊本県立大学とは、「食」と「農」を踏まえた地域活性化検討などの取り組みも実施している。 今後も、地域課題調査を熊本県立大学と共同で実施するなど、農業活性化に繋がる取り組みを進めていく。	夢・アイデア
44	空家を活用したみんなが集う店づくり制度	地産地消と地域での生きがいづくりを目的として、地域住民で経営する指定日だけの店づくり。地域住民の憩いの場として、生産農家との触れ合いの場として、空き家や空き店舗の有効活用として、商売・笑売・生売。	本市上庄地区の空き家を整備し、「みんなの家」として、地域住民が集う場所として、様々な地域活動の拠点として活用している。 平成24年度からは、「みんなの家」を活用した一つの取り組みとして、包括連携協定を締結している熊本県立大学と協働し、人口が減少している農村集落である上庄地区をモデルとし、地域が抱える課題について市民調査を実施するなど、地域再生や地域に点在する空き家活用方法等の検討を行っている。 また、平成25年度からは、当地域住民で構成し、郷土料理を若い世代に伝承することを目的とした「上庄ひこばえの会」が発足し、「みんなの家」を拠点とし、地域住民の発意による様々な活動を行っている。 なお、今後も、現在の活動を基盤とし、空き家を活用した、更なる地域活性化に繋がる取り組みを推進していく。	夢・アイデア
45	農業による新たな雇用機会の創出	例えば「アニメ村」。アニメ原画書きを業とする若い世代を受け入れる村を作り、収入の足りない部分を農業でカバーする。若い世代の夢と、新しい農業雇用形態を築き取ります。	本市の基幹産業である「農業」と、若い世代の夢が詰まった「アニメ」を融合させるための様々な取り組みを行った。 地域住民等に、アニメ制作について理解してもらうための取り組みとして、市内小中学生を対象とした、アニメ制作のプロによるワークショップの開催や初音ミクを活用した合志市音頭の普及、合志市の歴史を題材としたストーリー漫画「カタルパの樹」の製作等の事業を行った。 今後は、今までの様々な取り組みにより、構築した各種のアニメ制作関係企業等との協力体制や信頼関係を活用し、アニメによる農業の活性化に繋がる取り組みを推進する。	夢・アイデア

## 市長マニフェスト 進捗状況

NO	事業名	事業説明	平成26年3月末の取組状況	実施時期
46	ドラえもんのような職員づくり	<p>必要な物がすぐに出てくるドラえもんの不思議な四次元ポケット。色々な視点で物事をとらえ、みんなの夢をまちづくりに活かすことのできる行政職員。市民の要望に優しく、素直に応えることができ、フットワークの軽い行政職員・組織を目指します。自由に使える研修費を用意し、自主的な研修に取り組み、市民ニーズを的確に捉え、スピーディな対応ができる四次元ポケットを持った職員づくりを目指します。</p>	<p>テーマごとに意欲のある市職員をメンバーとする研究チームを設置し、地方分権時代における独自の地域活性化やユニークなまちづくり等の研究に取り組んでいる。</p> <p>その一つに「チーム ヴィーブルくん」と称し、ゆるキャラブームに便乗した市総合センター“ヴィーブル”のマスコットキャラクターのヴィーブルくんの活動をサポートするチームを庁内で発足した。現在、市内外のイベント等に出向きヴィーブルくんの周知を図ると同時に市のPRを行っている。</p> <p>これまで、数人の有志で活動はしていましたが、出勤依頼が増えたことで職員の負担も増えたことから、本年、1月に庁内に呼びかけを行い、現在、13名が加入している。</p> <p>活動内容は、ほとんどがイベント等に出向き観客へのサービスを行うことですが、その活動を市のホームページ等に掲載したり、動画をyoutube「合志チャンネル」に掲載するなどの周知活動も行っている。</p> <p>また、ヴィーブルくんのテーマソングを制作したりと、今後は、ヴィーブルくんをカテゴリーとして、ヴィーブルくんや市のPRにつながる様々な取り組みを企画していきたいと考えている。</p>	夢・アイデア
47	東熊本経済圏構想	<p>熊本市、菊陽町、大津町等との人口100万人規模の経済圏を将来的な姿として捉え、広域的なまちづくりを検討することが必要です。</p>	<p>現在、本市を含む、熊本都市圏の14市町村で構成する「熊本都市圏協議会」において、域圏の成長に資する取り組みや、広域的行政課題の検討等を進めている。</p> <p>今後も当該協議会を活用し、将来の広域的なまちづくり、経済圏づくりの検討を行っている。</p> <p>なお、個別の取り組みとしては、平成24年度から、本市及び菊池市、大津町、菊陽町で構成する一部事務組合、菊池広域連合において、現在それぞれに運営している各種電算システムにおいて、住民サービス向上等のため、共同化の検討を行っている。</p>	夢・アイデア